

コンゴ（共）月報（2016年2月）

主な出来事

【内政】

●1日、政府は候補者受付は2月5日から同20日まで、選挙運動期間は3月4日から同18日までと発表。

●7日、モココ将軍(元参謀長)が大統領選への立候補を表明。

●19日、サス・ンゲソ大統領が大統領選挙への立候補を正式に表明。

【外交】

●27日、サス・ンゲソ大統領はカビラ・コンゴ（民）大統領と会談

【経済】

●伊企業 ENI は、ポワント・ノワールに所有する発電所を 300MW から 700MW へ増強すると発表。

【経済協力】

●11日、コンゴ（共）・カメルーン間国際回廊道路の第1フェーズであるケッタ・センベ間の開通式にサス・ンゲソ大統領が出席。第2フェーズでは日本の円借款による支援に対し期待が表明された。

【日本との関係】

●日本大使館は、24日にブラザビルで、25日にポワント・ノワールでプレスツアーを実施し、日本の協力案件がメディアで取り上げられた。

◎特にソースが明記されていない場合は、「Les Dépêches de Brazzaville」による。

【内政】

《新憲法及び2016年大統領選挙》

・1日、政府は公共ラジオを通じ大統領選挙の候補者受付及び選挙運動期間を発表した。政令によれば、候補者受付は2月5日から同20日まで、選挙運動期間は3月4日から同18日までとなる。立候補者は、受付期間内に投票用紙に記載される候補者のロゴ、前科履歴書、国籍証明書等を提出し、25百万FCFA(3.8万ユーロ、返還なし)の供託金の支払いを行う必要がある。

・19日、サス・ンゲソ大統領は大統領選挙への立候補を正式に表明した。世代間対話の場で発表した。

・19日、EUは大統領選挙に選挙監視団を送らない決定をした。理由として選挙委員会がEUの勧告を満たしておらず、今年1月に改正された選挙法が、透明で民主的な投票を確保していないからとした。

《野党》

・6日、ゲイ・ブリス・パルフェ・コレラ MCDDI 幹事長は、野党フォーラム Frocad と IDC の政権交代という目標を達成するために立候補すると表明した。MCDDI は、与党グループであるが、パルフェ・コレラ氏は野党との共闘を表明している。また、同日にクレモン・ミエラ 社会民主党党首も立候補を表明した。

・7日、モココ 将軍(元参謀長)は大統領選への立候補を表明。また13日、モココ将軍は支持者を集めて最初の集会を開催し、「政治に新しい秩序と国家の再建が必要」と述べた。

・14日、クローディン・ムンアリ MUST 党首が立候補を表明した。

・モココ元参謀長は、治安当局である領域監視局から出頭を求められていたが出頭しなかったため、ブラザビル検察から聴取を受けることとなった。

・29日、野党プラットフォーム IDC と Frocad は大統領選における連帯協定に署名した。

《サス・ンゲソ大統領一家の不正財産取得》

・2日、サス・ンゲソ大統領家族の仏における不正財産取得裁判に関し、「サ」大統領が本件裁判を提起したX氏に対し対抗訴訟を提起した。本件訴訟を起こしたX氏が提出した書類には事実にそぐわない点があるため、大統領側は、仏司法当局が必要な調査を行うことについて完全に信頼していると述べた。

《ブラザビル市予算》

・17日、ブラザビル市議会は2016年予算につき、約320億FCFA(53百万米ドル)で可決した。2015年は314億FCFA(52百万米ドル)

【外交】

《中国大使のインタビュー》

・2日、中国大使は「Les Dépêches de Brazzaville」紙のインタビューに応え、政治的安定がなければ国家は発展できず、改革も出来ないと述べた。中国は他の友好国とともに大統領選挙の実施を支援すると述べた。また国民の判断を尊重し、友好国は介入すべきではないと述べた。

《対コンゴ（民）関係》

・27日、サス・ンゲソ大統領はカビラ・コンゴ（民）大統領と会談し、二国間関係全般や地域情勢につき意見交換した。会談は非公開で行われた。

《対イタリア関係》

・16日、ガコソ外相はイタリアを訪問し、外相会談を行った。今回の訪問は、2014年7月のレンツィ首相のコンゴ（共）訪問を受けて行われ、イタリア側より交通計画や河川交通インフラ計画が提出された。

《中ア関係》

・29日、中アのフォースタン・アルシャンジュ新大統領がブラザビルを訪問し、サス・ンゲソ大統領と2時間会談した。中ア問題の仲介を務めたサス・ンゲソ大統領に直接謝意を表明した。

《警察協力》

・8-10日、第23回アフリカインターポール会議がブラザビルで開催された。

【経済】

・2日、伊企業ENIはサス・ンゲソ大統領との面会で、ポワント・ノワールにある発電所につき300MWから700MWへ増強を目指すと発表した。また、新海底油田についても追加投資を計画している。

・2日、南ア企業Sintoukokaの代表が、オバ鉱物資源大臣を表敬した。現在、ブラザビル近郊のクイルー県にあるカリ鉱石の採掘に関する調査を実施しており、2018年を目途に採掘開始できると述べてた。将来的に3000人の雇用が創出される見込み。

・26日、サス・ンゲソ大統領は中国農業銀行の傘下でコンゴ（共）と共同出資で設立されたLa Banque Sino-Congolaise pour l'Afrique(BSCA)の本社事務所建設の起工式に出席した。

【経済協力】

・11日、コンゴ（共）・カメルーン間国際回廊道路の第1フェーズであるケッタ・センベ間の開通式にサス・ンゲソ大統領が出席した。本件道路は、中国企業のSynohydro Corporation Limitedにより建設され、アフリカ開発銀行が470億FCFA（約78百万ドル）、コンゴ（共）政府が540億FCFA（約90百万ドル）を出資し建

設された。第1、第2フェーズ合わせて312kmが舗装される予定で169kmが今回舗装され開通した。式典に同席したジャン＝ジャック・ブヤ大規模事業団担当大臣は、インタビューにて第2フェーズ（センベ・スアンケ間）について言及し、アフリカ開発銀行が800億FCFA（約133百万ドル）、JICAが390億FCFA（約65百万ドル）を出資するとした。

・コンゴ河沿いに中国建設企業 China Road and Bridge Corporation によって建設された新規道路区間が開通した。レストランマミワタからバ・コンゴ区までを繋いでいる。

・12日、AFDの支援で、今後2年間でブラザビル近郊4万世帯に水道管が設置されるとする計画が発表された。金額は78百万ドル。

・世銀の経済多角化計画(PADE)の2年延長が決定された。

・世銀のプロジェクトである貧困層への補助金支給計画(リスンギ)で、貧困層を特定する任務を負っていた職員が、支給対象者から見返りとして一部のキックバックを受けていたことが判明した。

・露大使は、ポワント・ノワールーブラザビルーウエソ(北部)を結ぶパイプラインの建設、1000MW級のスンダダムの建設に意欲を示した。

・世銀のプロジェクトであるコンゴ(共)とガボンとの光ファイバー設置計画(全長504km)のうち、362kmが既に設置されたと発表された。

・18日、オンドongo財務大臣は仏開発庁との770億FCFA(1.27億ドル)の借款計画に署名した。国営電力会社(SNE)の人事部門の技術研修、大学病院(CHU)の給排水設備のリハビリ、水道拡張工事に利用される。

・24日、日本大使館の高橋書記官が、ブラザビル郊外マディブ区のルアにある日本政府の資金で建設された就学前教育施設と再教育施設を訪問した。取材陣を引き連れ、学校関係者への取材も実施した。日本は、教育・保健分野に力を入れていくと述べた。

【社会】

・2日、ブラザビル大学病院長に任命されたジゼル・マリー・アリオンジ氏が職務を開始した。前職は経済・財務・予算省の人事部長として活躍した。

・15日、サス・ンゲソ大統領はブラザビルに建設予定の新しい軍病院の起工式に参加した。12ヘクタールの敷地に、病棟数5、病床数443の病院を建設する。飛行機事故等大規模災害に備えて、緊急時収容施設も備え、総額は約2.8億ドルの見込み。最近、政府は軍医をキューバに派遣して研修させており、シナジー効果が期待される。

・16日、フグブラザビル市長は、タランガイ区（5区）のママン・ンブアレ市場の開所式に参加した。建設は中国企業が請け負った。

・水道公社は、当初予定していた値上げを取り下げた。ブラザビル及びポワント・ノワール市で月額16500FCFAになる予定だったが12700FCFAに据え置いた。

・サス・ンゲソ大統領はブラザビル北部キンテレに新しく建設予定のサス・ンゲソ大学の起工式に参加した。350ヘクタールの敷地に、38の建物を2410億FCFA（4.02億米ドル）をかけて建設予定で、3万人の学生を見込む。完成予定は2019年。

【日本との関係】

・25日、日本大使館はポワント・ノワールでプレスツアーを行い、草の根無償による消防車・救急車整備案件署名式とJICAが実施中の「ポワント・ノワール市水産物バリューチェーン改善計画」のサイト視察を行った。消防式典では、政府要人及び現役消防士が参加し、我が国との更なる協力を期待が表明された。

（了）